

## 1 社会・治安情勢

### (1) テロ情勢等

イスラム原理主義等の国際テロの当国への浸透は今のところ確認されていないが、当局はそのような状況の発生を未然に防ぐため、警戒を強化している。国際テロ関係の暴力的な集団は認められない。

また、日本人を標的とした営利目的の誘拐等に関する情報についても確認されていない。

### (2) 有毒ガス散布騒ぎと各地の暴動

年明けからコッパーベルト州で顕在化した儀式殺人に関する情報が国内各地に広がるとともに、有毒ガスを用いたとされる事象や右に過剰に反応した群衆による暴動事件が発生し、2月には首都ルサカにおいても各地における暴動につながった。

大統領が率先して情勢の鎮圧化にあたった結果、各地の情勢は落ち着きを取り戻してきている。なお、警察当局の評価によれば、儀式殺人や有毒ガス散布に係る情報には実態がなく、誤った情報によって不安に駆られた市民の過剰反応が暴動等の原因とされている。有毒ガス散布に係る偽情報を流布したとされる容疑に関し、裁判が進行している。

### (3) 一般治安・犯罪状況等

貧富の差の拡大が見られるほか、人口増加と都市部への農村人口流入といった状況が継続しており、度重なる計画停電や経済的な不安的要因による社会的なリスクが増大している。右に伴って、都市部を中心に治安情勢の悪化が懸念される。犯罪の発生は今のところ低く抑えられているが、窃盗、置き引き、ひったくり、スリ等の一般犯罪が目立つ。

### (4) 社会情勢

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、ザンビア経済への影響が懸念されている。また、昨年から続く水不足により、電力供給に甚大な影響が出ている。地域によっては日に12～15時間の停電が発生しており、人々の生活に重大な影響を及ぼしている。これらが特に貧しい階層の人々の不満の増大につながり、治安情勢にも悪影響が及ぶことが懸念される。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 在留邦人が多数居住し比較的安全とされているルサカ市においても車上荒らし、住居侵入などが断続的に発生している。また、コンパウンド内では日中であってもスリや放火などが発生している。

### (2) 邦人被害事案

ア 1月下旬の平日夜、ルサカ市タウンエリアの公道を車両で移動中、信号停車した際に助手席に座っていた邦人がスマホを奪われる窃盗被害にあった。車両窓の隙間（上部）から加害者1名の手が車内に侵入し、同邦人が操作していたスマホを強奪。邦人に身体的被害なし。

イ 2月20日昼12時頃、ルサカ市ショッピングモール付近の道路を歩行中、邦人が背負っていたリュックから携帯電話が無くなっていたことに気づいた。バス停付近を通り過ぎた際、何人かが近づいてきたため、その時に搾取された可能性が高い。邦人に身体的被害はなし。

ウ 2月29日17時頃、ショッピングモール駐車場に車両を駐車していたところ、鍵をこじ開けられて後部座席に残置していたバック類を窃盗され、携帯電話、電子手帳等が搾取された。邦人に身体的被害はなし。

エ 3月10日東部州チパタにおいて、邦人は朝から勤務先で勤務して16時頃帰宅した際、自宅裏口及びグリルドアの一部が破壊され、寝室の窓に設置されていたバーグラバーの一部が壊されていた。自宅に入ると寝室以外の部屋は無傷だったが、寝室内の棚に置いていた現金1,500K、100USD及びリュック、洋服数点が窃盗される被害に遭った。邦人に身体的被害はなし。

オ 3月25日未明、ルサカ州の邦人住居において、出勤時に自宅の引き出しに残置していた財布から現金約7,000Kが抜き取られていた。住居には鍵がかかっており、現金以外は取られていない。メイド及び大家が同住居の鍵を保有していた。邦人に身体的被害はなし。

### (3) 邦人以外の被害事案

3月末深夜1時頃、ルサカ州の米国人女性住宅において、就寝中の女性が5人組に暴行され、現金90,000K及び300USDを盗まれる被害に遭った。暴行された女性は、負傷により地域病院に入院中。外柵に設置されていた鉄条網は切断され、ドアが破壊されていた。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 5 日本企業の安全に関する諸問題

問題とされる情報に接していない。(了)